CDEJの活動を介護の領域へ—出前糖尿病指導—

内科阿部医院 渡辺 鈴子

糖尿病患者さんの中には、介護担当者にお世話になっている方も多いと思われます。しかしながら、介護担当者の糖尿病患者さんに対する経験が浅く、糖尿病患者さんへどのように対応したらよいか不安を抱えながら介護しているのが現状のようです。

「出前講義」発足までのエピソード

外来通院患者のAさんはインスリン治療中でした。高齢で視力障害があり独居のため、インスリン注射はうまく出来ているだろうか？と心配な患者さんです。ある日、ヘルパーさんと一緒に外来受診されました。ヘルパーさんにインスリン注射の手技を時々確認してもらえるか尋ねると、「注射器の使用方法が全くわからないから…」という返事でした。

デイケアや老健施設の介護担当者に糖尿病の知識や技術を学んでほしいと要求する前に、介護担当者に糖尿病の知識や技術を学ぶ機会を提供する、その役割が私たちにあると感じたわけです。ちょうどそのころ、ある介護施設から糖尿病について勉強会の要望があり、「出前糖尿病指導」がスタートしました。

平成15年に開始して今までに17回開催してきました。

このような活動をしています

「出前糖尿病指導」に力を入れているのが、CDEJを中心にした大分県糖尿病療養指導士会（大分LCDE会）です。大分LCDE会は発足して9年、312名の会員は職場での活動は勿論、地域に根ざした糖尿病療養指導に取り組んでいます。出前講義は、大分LCDE会員の手作りによるものです。ワーキンググループを編成し、講義内容を検討しパワーポイントを作成しました。

講義内容は、糖尿病とは、薬物療法、低血糖、フットケア、高齢者の食事です。講義は専門職種が担当し各テーマで15～30分程度。調理実習やSMBGの実技、インスリン注入器に触る体験なども行ないます。

対象は大分県介護福祉士の会員、老健施設のスタッフです。介護福祉士の会員を対象の時は、土曜又は日曜の半日を用い、糖尿病全体の講義と実習まで行ないます。担当LCDEは15名前後です。老健施設での講義は平日の勤務終了後の1～1.5時間程度で、数回に分けます。担当LCDEは3～5名。おのおの1回の参加者は50名前後です。

「出前講義」受講者の感想

受講者の感想として、糖尿病合併症など糖尿病のことが学べて糖尿病が身近になった、調理実習で味付けが学べた、インスリン注射器やSMBG機器の使用が簡単なので驚いた、注射器に触れたので患者の気持ちがいよ理解できそうだ、などがあげられました。また現場では丸く爪きりしていたのを改めた、水虫をきちんと治療するようにした、低血糖の発見が早くできたなど、学んだことを実際に活用しているケースも多々ありました。

出前講義はLCDE会員のやりがいとレベルアップに繋がっています。介護スタッフへの糖尿病教育は非常に有意義と考え、皆様にも紹介させていただきました。